



東急子ども応援プログラム

2024年度(第4回)
完了報告書



東急

子育て・学生応援
東急
スクラム
プロジェクト

2024年度（第4回） 東急子ども応援プログラムを終えて

ごあいさつ

東急子ども応援プログラムは、子どもたちやその家族が安全・安心で心豊かに暮らせる生活環境づくりをサポートする市民団体の活動を助成するプログラムとして、2020年7月にスタートしました。東急線沿線地域で行われる活動を公募・選考させていただき、1年間の活動に助成します。

当社は地域の皆さまと共にまちづくりを推進し、存在理念には「美しい生活環境を創造し、調和ある社会と、一人ひとりの幸せを追求する」と掲げています。子どもたちを取り巻く課題が複雑化する一方で、そこに向き合う市民活動も活発になっている今、当社も地域社会の一員として、子どもたちが一人ひとりが持つ多様な可能性と「幸せ」につながる活動を応援したいと考えています。

2024年度もさまざまな活動が行われました。個性あふれる16団体の活動成果をご覧いただければ幸いです。

東急株式会社 東急子ども応援プログラム事務局

2024年度選考にあたって 選考委員長の選後総評より

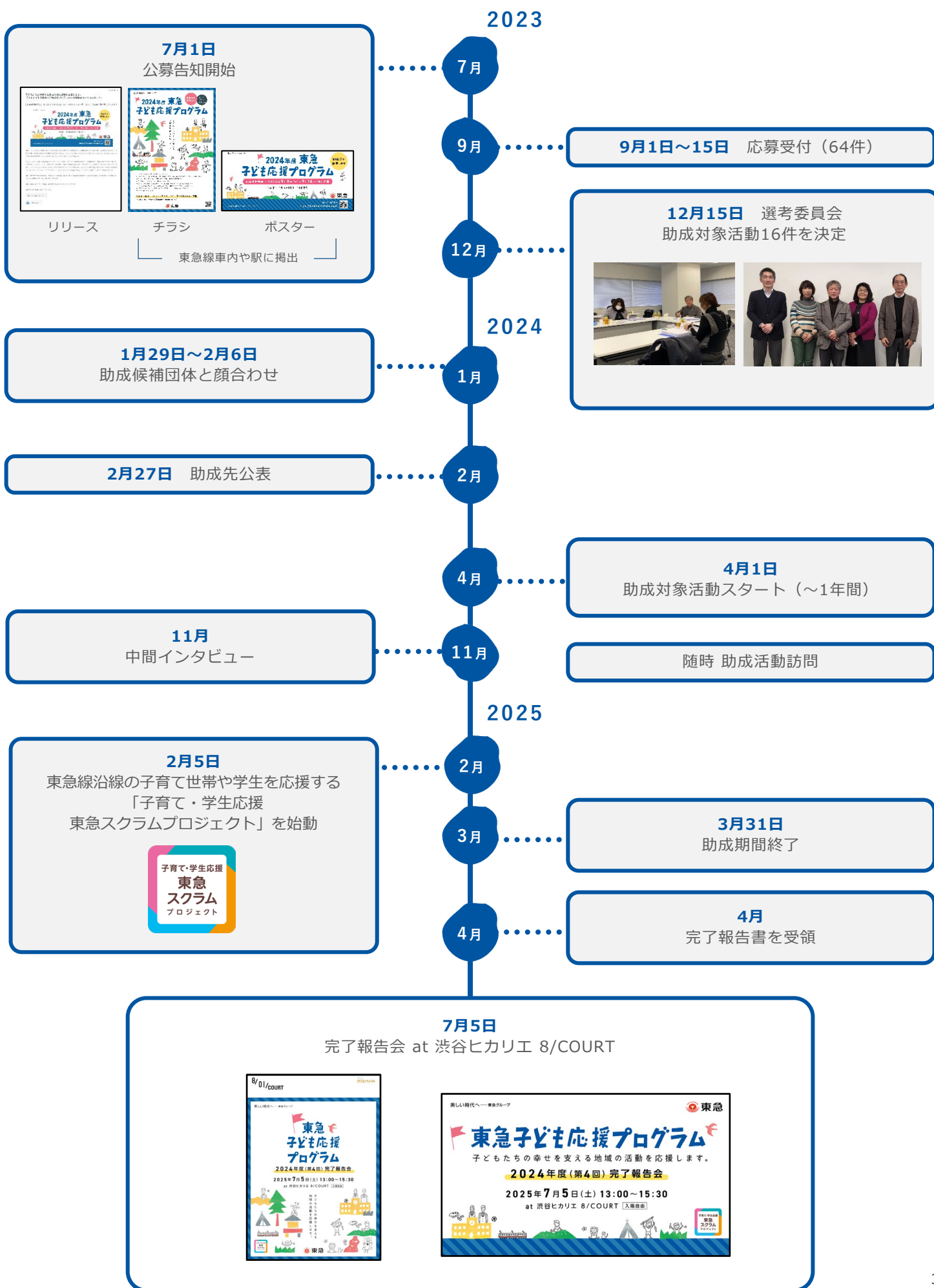
今年度は昨年度よりも応募が急に増えた。またどれも、申請書がしっかりと書いてあり、選考で絞り込むのは大変苦労をした。しかしながら、全体のパイは決まっているので、全てに分けられない。僅差で採用にかなわなかった申請なども、有意義なものが多く、その採否は相対的な評価による線引きの結果で、申請団体の活動や申請内容を否定するものではないことを強く伝えておきたい。とりわけ、今年度の申請には困難な状況に置かれた子どもたちの支援を行う活動が例年より多いように見受けられた。

こども基本法が成立し、こども家庭庁が発足したことで、国を挙げて子どもに光を当てた政策が打ち出されるかと期待したが、どうもはっきりしない。もとより、子どもの生活圏を考えれば、地域単位で子どもに目を注ぐ活動が求められる。とても行政だけでできるものではないので、NPOをはじめ民間団体の役割が期待される。子どもの成長に地域コミュニティが果たしていた役割が人間関係の希薄化とともに薄れてきた中で、そのような専門組織と行政、そして企業の連携をどう築くかが課題である。本プログラムもその一助として発展していくことが期待される。

木下 勇
大妻女子大学 教授／千葉大学 名誉教授・グランドフェロー

※東急子ども応援プログラムHPからの抜粋

活動履歴



助成対象活動一覧

団体名称50音順

助成対象活動 (16件1,500万円助成)	団体名	代表者	助成対象 活動エリア	助成金額
土と水と草といきものとともに たくましく遊んで、親子で育ち合う ▶P5	NPO法人 青空保育ぺんぺんぐさ	理事長 井上 香織	横浜市 青葉区	100万円
Let's play!! SCRAP#PARK ▶P6	一般社団法人 おおたクリエイティブ タウンセンター	センター長 野原 卓	大田区	99万円
デジタルツールを活用した、 重症障がい児と地域の子ども達が 共に子どもらしく過ごせる遊び場づくり ▶P7	NPO法人 Ohana kids	代表理事 友岡 宏江	世田谷区	55万円
竹山プロジェクト ▶P8	NPO法人 KUSC	理事長 佐藤 武	横浜市 緑区	100万円
ろう者×聴者 多様な子供たちのための 防災プログラム実施 ▶P9	公益財団法人 現代人形劇センター	理事長 塚田 千恵美	川崎市 中原区	100万円
地域で多様な子ども・家庭と若者が ともに育ち合う場づくり ▶P10	認定NPO法人 CFFジャパン (★)	代表理事 安部 光彦	世田谷区	99万円
こどもまんなか多文化教育プロジェクト ▶P11	NPO法人 Sharing Caring Culture (★)	代表理事 三坂 慶子	横浜市 青葉区、都筑区	100万円
誰でも参画可能！ 「多世代が集う、山崎団地冒険遊び場 プロジェクト」 ▶P12	学校法人 正和学園 幼保連携型認定こども園 正和幼稚園	園長 大崎 志保	町田市	100万円
子どものための親子交流促進事業 ▶P13	一般社団法人 びじっと・ 離婚と子ども問題支援センター (★)	代表理事 古市 理奈	東京都 神奈川県	100万円
児童養護施設の子どものための 地域密着型就労支援 ▶P14	NPO法人 フェアスタートサポート	代表理事 永岡 鉄平	東京都 神奈川県	100万円
家族をがんで亡くした子どもに対する グリーフサポートプログラム ▶P15	NPO法人 Hope Tree	代表理事 大沢 かおり	目黒区、渋谷区、 千代田区	50万円
こどもがつくるこどものまち 「ミニヨコハマシティ」と こどものまち EXPO 開催 ▶P16	認定NPO法人 ミニシティ・プラス	理事長 三輪 (藤岡) 律江	横浜市	100万円
「こどもホスピス」 ～この瞬間を笑顔に！みんなであえて叶えたい～ ▶P17	認定NPO法人 横浜こどもホスピスプロジェクト (★)	代表理事 田川 尚登	神奈川県 東京都	100万円
横浜市立みなと総合高校 「校内カフェ」運営事業 ▶P18	公益財団法人 よこはまユース	代表理事 大向 哲夫	横浜市 中区	100万円
萌カフェ みんなのおうち ▶P19	NPO法人 レスパイト・ケアサービス萌	代表理事 中畝 治子	横浜市	97万円
子どもリージョンフィルム ディレクター養成講座@おおた ▶P20	NPO法人 ワップフィルム	理事長 平松 優太	大田区	100万円

団体名に(★)印のある団体は、前年からの継続助成です。

土と水と草といきものとともに たくましく遊んで、親子で育ち合う

団体名：NPO法人 青空保育ぺんぺんぐさ



● 団体紹介

自然の中で自ら育つ力を尊重し、自然体験や主体的な遊びなどの「実体験」を重んじつつ未来社会につながる力も育む乳幼児保育事業を行っています。保育士・スタッフの元で会員保護者も協力し、「ひとりで子育てしないで」を合言葉に、地域とも連携しながら安心して子育てできる「子どもをあたたく見守るまちづくり」の実現を目指しています。（設立2012年）

● 助成対象活動の目的と概要

古き良き子育ての新しい形での再現を目指すとともに、未来社会を見据えた「生きる力」の育み方の提案として以下の活動を行いました。

- ・ 日常型の幼児教育機関として、青空保育活動に創作活動・クッキングなど多彩な活動を織り交ぜることで週5保育に拡充
- ・ 外遊び体験会・育児相談会「あそぼう会」や講演会などの子育て支援事業
- ・ 小学生の放課後の居場所となる「放課後クラブ」、長期休み時に自然体験の場を提供する「里山あそびクラブ」などの野外活動事業

● 助成対象活動の実績

● 青空保育活動

1. 日常型の幼児教育機関としての活動「青空保育ぺんぺんぐさ」
 - ・ 1歳半～5歳児を対象とした預かり保育、週2～4日実施
 - ・ 0・1歳児親子組：登録組数延べ 8組、計26回実施
 - ・ 保護者懇談会：月に1回実施、パパ参観日：8/25、16名、パパ懇談会：11/16、7名参加
2. 週5日保育「青空園ぺんぺんぐさ」の拡充
 - ・ 3歳～5歳児の希望者：9時30分～13時30分（14時の場合あり）実施。2024年度末7名利用

● 子育て支援事業（イベントの定期開催）

1. 外遊び体験会・育児相談会「あそぼう会」：全12回、親子延べ109組参加
 - ・ （特非）スペースナナ「のんびりアートディ」とのコラボレーション企画実施
 - ・ 青山学院大学コミュニティ人間科学部教授・菅野幸恵氏、月刊クーヨン編集長・戸来祐子氏による講演会「外で遊ぼう。～AI 時代になぜ外遊びが必要なの？～」：9/18、会場22名（大人15名、子ども7名）、オンライン配信（9都道府県・海外から延べ42名）参加
2. 公開学習会「ぺんカフェ」
 - ・ （特非）森のようちえん全国ネットワーク連盟監事・（公財）社会教育協会日野社会教育センター元館長、中能孝則氏による学習会：7/8、23名参加
 - ・ 写真家・子育て当事者研究ファシリテーター、江連麻紀氏による学習会：12/2、20名参加

● 野外活動事業（小中学生の居場所づくり・自然体験）

1. 放課後活動「ぺんぺん放課後クラブ」：小学校低学年を対象に30回開催、各回7～25名の親子が参加
2. イベント開催「ぺんぺん里山あそびクラブ」：小中学生・OB・OGを対象に5回開催、各回13～20名が参加

● 野外活動事業その他

- ・ 「畑で週末親子デイ」（通年）：延べ267名参加
- ・ 「さつまいも掘り収穫祭」：11/16、91名参加



① 保育活動の様子

② あそぼう会の様子

（スペースナナでのアート活動）

この1年間の成果

今年度は保育スタッフの増員を行い、保育体制が安定してきました。主要事業である青空保育活動において、週5日保育「青空園ぺんぺんぐさ」を本格稼働し、活動の幅を広げることができました。また、「あそぼう会」は青葉区近隣では例の少ない「外遊び中心の子育て支援」として0歳児からの参加も増加し、父親も共に参加する親子や遠方からの参加者、リピーターも増えました。のびのび子育てや外遊びを体感し、つながりを実感する場として今後も継続していきたいと思います。新たな取り組みとしてトライアルを始めた小学生放課後活動も定着し始め、親子ともによりどころになりました。今後も乳児から小中学生や大人まで、多層に集えるコミュニティを展開していきたいと考えています。



団体名：一般社団法人 おおたクリエイティブタウンセンター

● 団体紹介

「大田クリエイティブタウン構想」をもとに、①従来の製造業によるものづくりに創造産業による高付加価値を加えた「モノづくり」、②これに基づく「まちづくり」の進展を実現すべく、公×民×学という多主体連携の実現のためのプラットフォームの構築、③それらをマネジメントする主体形成、に取り組んでいます。（設立2017年）

● 助成対象活動の目的と概要

幼児・低学年を中心とした子どもたちとその親を対象に、子どもたちの非認知能力の向上を目指すSCRAP活動に取り組みました。大田区の町工場から出る廃材を生かし、本格的な工具も使って試行錯誤しながら「つくる」ことを楽しむ経験を通して、考える・試す・別の方法を見つけるといった社会活動に必要な能力やマテリアル認知力、自身が住む地域を支える産業やSDGsなど環境保全への関心を育みます。

● 助成対象活動の実績

大田区にある技術の異なる協力工場（約50社）で廃棄する予定だった、普段工作には用いないような材質や形の素材くバネやねじなどの金属加工部品や、パッキン、導線、樹脂のだんごなど>を100種以上ディスプレイして、その場での自由な発想による工作イベント（学校などで使いたない道具の他に、安全を考慮しサポートしつつ、グルーガン・のこぎり・ドリル・かなづちなど、子ども向けの工作では避けられがちな道具も使用）

第1回

6月22日（土）・23日（日）10時～15時

会場：くりらぼ多摩川（東急多摩川線武蔵新田駅徒歩5分）

対象：3歳以上の未就学児～小学生

来場者：（子ども＋保護者）80名

第2回

9月28日（土）・29日（日）10時～15時

会場：くりらぼ多摩川（東急多摩川線武蔵新田駅徒歩5分）

対象：3歳以上の未就学児～小学生

来場者：（子ども＋保護者）85名

第3回

11月30日（土）・12月1日（日）10時30分～12時／14時～16時

会場：くりらぼ多摩川（東急多摩川線武蔵新田駅徒歩5分）

対象：3歳以上の未就学児～小学生

来場者：（子ども＋保護者）67名

第4回

3月31日（月）11時～13時／14時～16時30分

会場：都湯（東急多摩川線下丸子駅徒歩4分）

対象：3歳以上の未就学児～小学生

来場者：（子ども＋保護者）62名



①電動ドリルを使って、素材の穴あけに挑戦中
②突如始まった、より多くのネジを磁石につけられるのは誰だゲーム

この1年間の成果

助成対象事業を通して、地域産業が生み出す多様な素材と環境デザインが、子どもたちの創造性（考えを構築・表現する力・試行錯誤を楽しむ力）を刺激し、新たな文化・学びの種となるんだ！と多くの方と共有することができました。これから、ただの素材のリユースではなく、地域の産業・技術の蓄積が詰まった“魅力的な素材”“資源”を循環させて、新しい文化の掘り起こしから再構築を今いるメンバーや、新たに加わるメンバー、事業に共感し応援くださる方々と共に楽しみながら進めてまいります。



● 団体紹介

全ての子どもたちが「お誕生おめでとう」と心から祝福される社会を目指し、肢体不自由と知的障害が重複する重い障がいを持つ子どもや、医療的ケアが必要な子どものための通所施設を開設。未就学児対象の児童発達支援事業と、小学生～高校生対象の放課後等デイサービス事業、障がいを持つ方のための相談支援事業も行っています。（設立2017年）

● 助成対象活動の目的と概要

重い障がいや医療的ケアが必要な子どもたちとその家族が抱える日常のバリアーを改善し、さまざまな課題に地域全体で取り組める「地域共生社会」の実現を目指して、以下の活動を行いました。

- ・ 重度障がい児とそのきょうだい児や地域の子どもたちが、デジタルツールを活用して共に遊び、理解し合えるワークショップ
- ・ インターネットやSNS、映像記録などによるデジタルツール活用の実践例の周知活動

● 助成対象活動の実績

● 重度障がい児とそのきょうだい児や地域の子どもたちが、デジタルツールを活用して共に遊び（※）理解し合えるワークショップの開催

11/4開催、大人22名、子ども16名参加

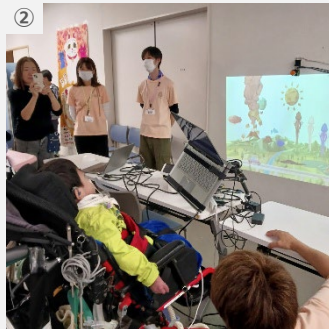
※壁面をタッチすることで画像が動く、視線で画像を動かす、手の動きに反応して進める遊びなど

● インターネットやSNS、映像記録などによるデジタルツール活用の実践例の周知活動

- ・ 一人ひとりの障がいに見合ったデジタルツールの活用方法を施設職員がサポートしながらご家族と共に模索し、障がい児の余暇活動のモデルづくり、実践事例をSNSなどで情報発信
- ・ 学校や関係機関への情報共有、機器の個別説明などにより、学校や在宅での利用に興味を持つ保護者が増えるなど、障がい児の余暇活動の充実に寄与



①日々の活動時にデジタルツールを使用している様子



②・③イベント開催時に壁面を使って遊ぶ様子



④イベント開催時に健常児が視線を使った遊びを体験

この1年間の成果

障がいのある子どもたちが年間を通じてデジタルツールを使用し、主体的に遊ぶ楽しさや、新たな可能性の発見につながりました。またイベントを開催し、デジタルツールの使用を通じて、障がいのある子どもない子ども共に遊べる機会をつくることができました。それぞれ得意なことは異なりますが、遊びたい気持ちは皆同じ。手や目や声を使って、画面を動かし遊ぶことができました。お互いが理解し合い尊重し合い、自然に手を取り合っていける社会の実現に向けて、一緒に遊ぶ経験は大きな一歩となることでしょう。



● 団体紹介

高齢化が進む地域全体の活性化を目指し、小学生から高齢者までが利用できる多世代交流のコミュニティスペースを運営。調理師免許を持つシェフによる体に良いスパイスを使用した「スパイスカレー」を提供する神大カフェや、理学療法士監修の介護予防につながる体操教室の実施、子どもたちの学習支援や居場所づくりも行っています。（設立2005年）

● 助成対象活動の目的と概要

子どもたちの学習支援と居場所づくりのため、放課後や長期休暇などに、定期的に以下の活動を行いました。

- ・ 放課後や夏休みにカフェの一部を無料開放し、大学生が個別指導する宿題応援
- ・ 横浜市立竹山小学校と連携した3年生対象の放課後の学習支援
- ・ 地域住民の休憩・団らんの場合、食育の場ともなるコミュニティカフェ事業
- ・ 小学生の食事への興味や栄養の学びにつなげる食育プログラム

● 助成対象活動の実績

● 宿題応援

夏休み期間中は昼間、登校期間は放課後など子どもたちの状況に応じ設定した、大学生による無料の宿題応援

実施回数：全16回（7月23日～8月23日の火・水・木曜日を中心に開催）

場 所：竹山団地内「神大食堂」

対象属性：小学生

● 学習支援

竹山小学校と連携した放課後1時間の自主学習支援。大学生2～3名が小学校へ訪問し実施

実施回数：全20回（木曜日14:40～15:25）

場 所：横浜市立竹山小学校

対象属性：小学3年生

● コミュニティーカフェ事業

地域住民の休憩・団らんの場合、食育の場となることを目的に、毎週水・金曜日に運営

利用者数：4月～3月、合計2049名利用

場 所：竹山団地内「神大食堂」

対象属性：全世代

● 食育プログラム

保護者の帰りが遅くなる子どもたちに温かく健康に良い食事を提供し、食事への興味や栄養の学びにつなげることを目指す「子ども料理教室」を開催

実施回数：全16回（9月～2月）

場 所：神大食堂

参加属性：小学生



竹山小学校での「学習支援」



①竹山小学校「体育授業補助」



②夏休み「宿題応援団」



③神大食堂「子ども料理教室」

この1年間の成果

「竹山プロジェクト」は地域の子どもの学習支援、多世代交流の促進、そして地域コミュニティの活性化に大きく貢献することができました。特に、神奈川大学サッカー部の学生と子どもと子育て世代から高齢者まで、地域住民が世代を超えて交流する拠点となったコミュニティカフェは、多くの笑顔と活力をもたらしました。今後は、この活動をさらに発展させ、地域に根差した持続可能な活動を目指してまいります。

ろう者×聴者 多様な子供たちのための防災プログラム実施

団体名：公益財団法人 現代人形劇センター



● 団体紹介

人形劇の創造活動の場にあまたの可能性を提起して貢献することを目的に、郷土的・民俗的人形劇の文化財の伝承・保存や、児童文化に影響を与える人形劇の研究と実践を目指しています。1980年、人形劇団「デフ・パペットシアター・ひとみ」を結成し、現在に至るまで企画・運営。同劇団は聴者とろう者の協働による国内唯一の専門人形劇団として、障害の有無や世代を問わず楽しめる人形劇を発信しつづけています。（設立1969年）

● 助成対象活動の目的と概要

聴者とは異なる被災リスクを抱えるろう学校の子どもたちが、災害時に起こりうる事態や正しい対処、必要な備えについて学び、防災意識を持てるよう、防災をテーマにした人形劇などの防災プログラムを実施しました。また地域の全ての人々に向けたイベントを開催。障がい者や外国人などの被災リスクについて紹介し、近隣地域の人々への啓発と持続的なつながりづくりを行いました。

● 助成対象活動の実績

● ろう学校の生徒を対象とした防災プログラム

- 「デフ・パペットシアター・ひとみ」による防災人形劇「稲むらの火」の上演
- ろう者が緊急車両の通行を感知するためのデバイス（富士通株式会社）の体験会
日時：11月19日13:15～14:30
参加者：児童生徒約40名（ろう者、難聴者）、教員約30名



● 障がい者や外国人などの被災リスク紹介と啓発「みんなで！インクルーシブ防災まつり」

- 「デフ・パペットシアター・ひとみ」による防災人形劇「稲むらの火」の上演
- 「しょうぼうず」による手話×防災大道芸のパフォーマンス
- 聴覚障がい者や外国人の防災に関するブース展示 川崎市消防局指令センター（緊急通報システム）、中原区危機管理担当（防災カードゲーム）、川崎市ろう者協会（手話体験、電話リレーサービス）、中原消防署（消防車展示）、川崎市国際交流協会（外国人の防災情報）、川崎市聴覚障害者情報文化センター（施設の取り組み）
- 中原区役所（危機管理担当）

による備蓄食の試食会

日時：2月24日10:30～15:00

参加者：一般、ろう者、
難聴者を含め165名

会場：川崎市国際交流センター



①「みんなで！インクルーシブ防災まつり」消防車展示風景



②防災人形劇「稲むらの火」舞台写真

防災まつりチラシ

この1年間の成果

今回一番の成果は、同じ地域で活動するいろいろな方と出会えたことです。聴覚障がい者や外国人の情報保障、あるいは災害発生時の安全確保や事前の備えについての発信。個性豊かな活動の数々は別々のものであるようでいて、根っこでは「だれもが安心して暮らせる社会を」という思いでつながっています。今回、そんな思いを同じくする方たちと協働し、ろう学校での防災プログラムや一般の方に向けた「防災まつり」を企画しました。この機会がなければそうそう得られなかったであろう貴重なご縁に感謝し、今後の活動に生かしていきたいと思ひます。



● 団体紹介

「未来の基盤である子どもと青少年と、共に育ち合いながら、その誰もが未来に希望を持てる社会を築くこと」をミッションに掲げ、フィリピン・マレーシア・ミャンマーでの子どもの支援・児童養護施設を運営し、日本から学生対象のボランティアプログラムを実施しています。ボランティアプログラムを通し、世界・社会の課題解決の担い手となる人材育成も行っています。（設立1996年）

● 助成対象活動の目的と概要

世田谷区烏山地域において、多様な子どもが集い、多様な若者が伴走支援することによって、子どもが個々に尊重され、自分（たち）自身で自分（たち）のことが決められる居場所をつくるものです。学習支援、イベント活動によって高校生・大学生のボランティアを育成する他、多様な背景を抱えた若者が担い手として社会参画する機会を創出。また、他の地域の居場所づくりのロールモデルとなることも目指しています。

● 助成対象活動の実績

● 地域で多様な子どもと若者がともに育ち合う居場所「まなカフェ」の運営

- ・ 運営時間：原則毎週水曜日16:00～18:00
- ・ 運営側（ボランティア）の振り返りと次週以降の企画：18:00～19:00
- ・ 実施回数：小学校の長期休暇中を除き年間40回

【子ども】

- ・ 世田谷区烏山地域に在住の小学生（烏山北小学校、烏山小学校など）：13名とその家庭
- ・ 小学校で特別支援教室をすすめられているなど、個別の配慮を要する子ども
- ・ 延べ参加人数301名（1回あたり平均7.5名）

【若者（ボランティア）】

- ・ 周辺地域の在住・在学者を中心とした高校生・大学生・社会人：29名
- ・ 通信制や定時制の高校などに通う生徒など含む延べ参加人数225名（1回あたり平均5.6名）

【子どもに対する活動内容】

- ・ 学習支援（学習習慣の定着および学習でのつまづきを予防）
- ・ 遊び（外遊び、ゲームなど子どもたちと一緒に日々の過ごし方を考える）
- ・ ボランティアや子どもたちの企画によるミニイベントの実施
- ・ 近隣の飲食店や子ども食堂との連携によるおにぎりやおやつを提供

● ボランティアの育成、多様な背景を抱えた若者が担い手として社会参画する機会の創出

- ・ チームとして主体的に企画・運営ができるように伴走
- ・ オリエンテーション（ボランティア自身の動機づけ、学習支援の基礎、まなカフェの趣旨や概要・ルール）の実施
- ・ Kintoneを活用したケース記録、振り返り、事例検討、場の運営方法や安全管理、次の企画立案など、毎週の取り組みを全員で実施

● 居場所づくりのロールモデルとなることを目指した、地域や関係機関との連携

- ・ 隣接するコミュニティーカフェと連携しての子どもや家庭の見守り
- ・ 子どもやボランティアが、学習支援以外の地域イベントなどへ参加・参画することへの支援
- ・ 「世田谷区子どもの学び場運営スタートアップ事業」の連絡会を通しての情報交換や事業ノウハウの発信



①子どもとボランティアが遊ぶ様子
②趣向を凝らした差し入れのおにぎり

この2年間の成果

2年間の継続助成により、場を提供されてきた受益者（子どもと若者）が、自ら場をつくる担い手になっていることが一番の成果です。多様な背景やさまざまな困難を抱えている子どもたちや若者たちが混ざり合い、共に育ち合いながら個々が自分らしくある居場所を自分たちでつくってきたことを実感できました。今後は乳幼児親子のひろばと活動の場を共にすることで、地域と共に多世代が育ち合っていく場づくりに発展させていきたいです。

● 団体紹介

地域の外国出身者と共に運営し、主に在日歴の浅い子育て中の外国人主婦の社会参加を促しながら、外国人の子育て支援事業や多文化共生促進事業を行っています。外国人親子を中心に文化的な背景が異なる人たちが個性を発揮しながら、協働のもと地域づくりを進めています。（設立2014年）

● 助成対象活動の目的と概要

- 外国籍や外国につながる子どもたちが母語や母文化、ルーツに誇りを持てるよう、また日本語の能力や国籍に規定されず社会参加し、個々の能力を地域で発揮できるよう、以下の取り組みを行いました。
- 外国籍児童、外国につながる児童および日本人児童が、さまざまな国の文化について学ぶ多文化教育プログラムの実施
- 子ども主体の活動に取り組む団体・施設の視察調査
- 多文化理解に対する児童の態度や意識の変化を読み取るためのアンケートの実施や、活動報告書の作成

● 助成対象活動の実績

● 多文化教育プログラムの実施に向けた取り組み

4/10、6/10、9/10 プロジェクトメンバーによるミーティング

外国人児童や外国につながる児童が抱える悩みや困りごとを可視化することを目的に、子どものワークショップのコンテンツとして、動画撮影・カード制作の実施を検討。対象年齢に応じて作成することで、多文化理解ワークショップの対話のためのツールとして活用する

7/15、10/19、11/17 多文化理解のワークショップ：中高生10名



第1回多文化理解ワークショップの様子

● 子ども主体の活動に取り組む団体・施設の視察調査

5/27 「東京都人権プラザ」視察

神奈川県には人権教育のことを学べる施設がなく、当該施設に人権関連の書籍も多いことから、SNSで発信した視察情報では多くのエンゲージメントを獲得

7/30～31「神戸デザインクリエイティブセンターKIITO」「とよなか国際交流協会」「多文化 IKUNOふらっと」訪問。子どもの人権という観点でヒアリング。作りこんでしまうのではなく、人が関わる余地をつくる（不完全プランニング）など、多文化理解プログラムを作る上で大事な視点を確認

● 多文化理解の促進を目指し、外国人当事者の困りごとを可視化する取り組み

【動画制作と映像祭への出品】

都筑区の学童の子どもたち主体に、当事者として困ったこと「算数は好きだけれど、テストができない」「クリスマス会に参加しちゃダメ？」の2つをテーマに動画を撮影。完成作品を「かながわ・わがまち映像祭」に出品（その他、子どもたち個々の作品も出品）

9月～1月 企画～動画撮影～動画完成まで5回のWSを実施

【「Diversity Talk Card」の制作】

青葉区の塾に通う中高生と外国人当事者が、自身の経験を写真や言語化した事例カード「Diversity Talk Card」を制作
10月～3月 企画～デザイン～印刷まで8回のWSを実施

この2年間の成果

子ども多文化交流プログラムの事業化を思い巡らせていましたが、2年にわたって助成を頂き、解決できたことが一番の成果です。1年目に年間15回のイベントを実施した結果、自分たちの強みは何か、少ないマンパワーでも効率的に届けられるコンテンツは何かと事業内容を吟味することになり、図書館での多言語おはなし会として結実しました。図書館をはじめ、保育園からも依頼を頂くなど、基盤ができました。また、1年目の課題から2年目は「交流」ではなく「教育」に重点を置き、Diversity Talkワークショップのパッケージ化とカードの制作ができませんでした。今後は、中学、高校でワークショップを実施し、中高生の人権教育に寄与していきます。



団体名：学校法人 正和学園 幼保連携型認定こども園 正和幼稚園

● 団体紹介

「こども」が中心・主体の保育を目指し、「いきいき」とした過ごし方ができるよう、保育・教育を実践しています。関連法律に従い学校教育および保育を行うことを目的に、幼保連携型認定こども園、小規模認可保育所、企業主導型保育事業、認可外保育施設の運営を行っています。（設立1969年）

● 助成対象活動の目的と概要

団地の空間を有効活用した子どもたちの第三の居場所「山崎団地冒険遊び場」を中心に、多様な世代が交わる活動拠点をつくりました。子どもたちの安全面を見守る、地域住民・高校生・大学生ボランティアの増員や、施策に賛同・参画する施設や団体を募り、多文化共生社会に向けて、他者の考えも柔軟に取り入れながら工夫・対処することを感覚的に学ぶ機会の創出を目指しています。

● 助成対象活動の実績

4月～3月 全12回実施 延べ1300名参加

- ・都立山崎高等学校が探究授業の一環「冒険あそび場チーム」を発足しプロジェクトに参加する他、高校生主導によるWSを開催。また、探究授業により認識した課題解決のためのブースを遊び場開催時に設置
- ・支援が必要な人や外国人などつながりリピーターも増え、多世代、多文化共生社会の実現につながる活動拠点として運営
- ・山崎団地自治会・UR都市機構・山崎団地商店街・高校・大学・近隣施設・NPOなど、連携先の拡大と強化
- ・さまざまな分野(教育・建築・芸術・コミュニケーション)を専攻する大学生（桜美林大学・大妻女子大学・玉川大学・立教大学・信州大学・工学院大学）が「まちづくり」をキーワードにゼミナール単位で参加
- ・2024年4月以降はこれまでの実績を踏まえ、町田市「定期開催型冒険遊び場」として認定を受け、運営



①山崎団地持ち寄りBBQの様子 ②・③山崎団地冒険遊び場の様子

この1年間の成果

町田山崎団地冒険遊び場が発足してから、在園児や卒園児の子どもたちや保護者の方を筆頭に定期的に足を運んでいただけることがとても増えました。今回の助成金で購入した備品を活用した場づくりを行ったことで、地域の方も気持ちを安らげる場として活用していただけるようになってきています。また、山崎団地には外国籍の方も多くいらっしゃり、山崎団地冒険遊び場の前を通った際に、寄っていただけることで地域の幼稚園や学校などともつながるケースも多いです。今までなかなか行く場所がなかったけれど、冒険遊び場に来たから、つながりを持つことができたといったような事例があり、さまざまなつながりを生み出す場として少しずつ活用できています。



団体名：一般社団法人 びじっと・離婚と子ども問題支援センター（★）

● 団体紹介

「10年先の子どもの未来を見据え 今を支援する。」というビジョンのもと、離別家庭の子どもたちが10年後に自身の力で力強く生きていくための心を育む親子交流（面会交流）※支援活動を実施しています。（設立2007年）

※親子交流（面会交流）とは、子どもと離れて暮らしている父母の一方が子どもと定期的、継続的に、会って話をしたり、一緒に遊んだり、電話や手紙などの方法で交流することをいいます。（法務省）

● 助成対象活動の目的と概要

「親子交流が当たり前の社会」を目指し、離別家庭の子ども一人ひとりが親子交流を通じて自己肯定感を育めるよう、以下の取り組みを行いました。

- ・ 神奈川面会交流総合窓口からの相談対応と当事者コミュニティ運営
- ・ 「親子交流ガイダンス」「卒業支援」プログラム開発と実施
- ・ 利用者アンケートの実施や、調査結果の分析を通して面会交流支援の意義を伝える広報活動

● 助成対象活動の実績

● 神奈川面会交流総合窓口からの相談対応と当事者コミュニティ運営

- ・ ペアレントタイムかながわ
窓口運営管理、相談対応27件：神奈川県支援団体情報を送付、個別相談への誘導など
- ・ 面会交流に悩む人々の当事者オンラインコミュニティ運営
参加者96名：当事者同士の意見交換を意識して醸成、自助グループとして精神的支えとなる場づくり

● プログラムの開発

- ・ 「面会交流ガイダンス」プログラム開発
面会交流ガイダンス骨子を開発。2025年度より新規利用者への適用を開始
- ・ 「卒業支援」プログラム開発
ステップアップ・卒業支援プログラムを開発。適用に向けた「びじっと利用者ルール」を更改、スタッフ研修を開始。
2025年度より既存利用者も含め適用を開始

● 面会交流支援の意義広報活動

- ・ 利用者アンケート開発と実施
実施期間：2024年10月16日～2024年10月31日 回答：106名
- ・ 調査結果分析と広報（HPへの掲載、ニュースリリースの発行など）
親子交流支援により、利用者が抱えていた不安が大幅に低減されていること、同居親の方が親子交流を意識するタイミングが早くなる傾向が判明（<https://npo-visit.net/archives/12091>）
- ・ 面会交流関連団体などのチャネルを通じた広報活動
- ・ 2024年10月6日：共同養育シンポジウム（神奈川面会交流支援団体連合会）開催
- ・ 2025年1月17日：横浜家庭裁判所を訪問、親子交流支援現場から見た家裁調停・審判の課題について書記官、訟廷管理官、事務官と意見交換を実施



「ペアレントタイムかながわ」シンポジウム
①第2回チラシ ②第1回会場の様子

この2年間の成果

神奈川面会交流支援団体連合会の設立と、市民のための総合相談窓口の開設が最大の成果です。これにより、行政や裁判所との情報交換が進み、支援の幅が広がりました。また、当事者の自助グループを立ち上げ、異なる立場を尊重しながら気付きを得る場を提供できたことも大きな成果です。支援活動を通じて、親子交流の重要性を市民に広く伝える必要性を改めて実感しました。今後は個別支援の充実だけでなく、他の支援団体との連携や市民への啓発にも力を入れ、子どもたちが健やかに育つ社会を目指して誠実に活動をしていきます。



団体名：NPO法人 フェアスタートサポート

● 団体紹介

理念は「どんな環境で育っても、全ての若者達が自分らしい“はたらく”を実現できる社会へ」。貧困や虐待などの家庭環境を背景に持ち、社会的養護を受けている子どもたちが18歳前後で就職するまでに、公平なキャリア教育とチャンスを与えられるよう、キャリア教育や就職後のアフターフォローを行っています。（設立2010年）

● 助成対象活動の目的と概要

児童養護施設で暮らす子どもたちが退所後、仕事を通じた自己実現や人生のwell-being向上を実現できるよう、個別に就職相談、職業適性検査、会社見学、就労体験、インターシップなどのキャリア教育支援を行いました。地域企業の経営者や社員との交流を通じて、子どもたちの自己肯定感が高まり基本的信頼感が回復し、健全な職業観を養えるよう、児童養護施設の職員たちのキャリア教育力の育成も行いました。

● 助成対象活動の実績

● 個別のキャリア教育伴走支援

就職相談 述べ49件
会社見学 述べ94件
就労体験 述べ50件

仕事見学体験イベント

- 4/7 プロバスケットボールクラブの横浜エクセレンスとの協働で試合観戦兼クラブチーム運営業務を見学。1施設より子ども10名が参加
- 7/19 イベント企画会社との協働で夏祭りイベントに参加、子どもたちが半分に分かれて客側と出店の運営側の両方を体験する方式で実施。1施設から28名が参加
- 7/21 新日本フィルハーモニー交響楽団との協働でコンサート鑑賞兼コンサート運営の裏側の仕事を見学。1施設より21名の子どもたちが参加
- 8/19～20 2日間をかけて会社見学ツアーを実施。1日2社ずつ（建物管理、ホテル、(株)リクルート、宅配生協）計4社を見学。2施設から10名が参加
- 8/20 宅配生協会社との協働で見学イベントを実施。1施設から3名が参加

● 施設のキャリア教育力の育成

- 施設職員によるキャリア教育現場への立ち合い、企業との交流の場の提供
 - 施設職員による会社見学や就労体験などへの同行 69件
 - 関係者による子ども若者の個別支援ケース会議への出席 11件
- 施設職員と企業のコミュニケーションサポート

キャリア教育支援の理解促進のため、自立支援担当職員を中心とした施設職員への就職面談や見学体験の立ち合い機会創出、協力企業と直接コミュニケーションすることでの関係構築へのサポートを実施。自発的な企業見学への意欲向上や、一部の施設では職員を巻き込んだキャリア教育体制の整備が進行



①



②

①会社見学の様子
②就労体験の様子



会社見学の様子

この1年間の成果

本事業を通じ、多くの子どもたちへキャリア教育を提供することができました。子どもたちの年齢は多岐にわたりますが、一人ひとりが自身の適性や興味を知る機会を経て来るべき進路選択に向き合っています。彼ら彼女らが社会で生き生きと活躍し働く喜びを感じられるよう今後も引き続きサポートを続けていきます。また、そのためには施設職員さんの協力と理解も不可欠です。本事業では職員さんへの啓発や教育にも注力し、そのベースをつくり出すことができました。団体では現在、全国に施設と企業がつながって子どもたちの就労支援を実施する取り組みを広めています。この取り組みが将来的に全国どの地域でも同じように実施される体制を目指し、今後も活動に注力していききたいと思います。



● 団体紹介

がん患者とその家族が、より不安少く過ごせることに寄与することを目指しています。がんになった親とその子どもが、より健康的に状況に対処できる能力を高められるような支援と、その支援に携わる医療者などに対する育成・指導を行い、併せてホームページや小冊子の制作、フォーラムの開催など、支援の重要性を広く普及啓発しています。（設立2008年）

● 助成対象活動の目的と概要

家族をがんで亡くした子どもたちを対象に、グリーフサポートプログラムを実施しました。プログラムでは、同じような立場の子どもたちが集うことで“自分だけではない”と孤独感を軽減し、気持ちを表現したり、自分自身のグリーフに対処する方法を考える時間や機会の提供を目指しました。同時に、配偶者を亡くした立場である保護者同士の語り合いの場も提供しました。

● 助成対象活動の実績

プログラム内容の充実・課題解決などの施策を実施しながら、2回のグリーフサポートプログラムを実施

- 参加希望者の状況に合わせ、熟練した専門家スタッフを配置
- 心理的配慮や安心感を視覚的に届けられるよう配慮した広報媒体の作成と、関連団体や協賛企業などへの効果的な広報の実施
- 募集期間の確保、費用負担など、参加への障壁を軽減する施策を実施

1回目 2024年10月27日（日）親子6組、子ども8名

親をがんで亡くした子どもが対象であることを踏まえ、これまでの支援経験と米国オンライン勉強会への参加などにより支援内容をブラッシュアップ。子どもたちが楽しめる表現活動の導入、すでに海外で取り入れられているアクティビティを日本人向けに修正しての導入などを検討し、実施。

2回目 2025年3月22日（土）親子3組、子ども4名

プログラムの精緻化を目指し、実施前には工作の試作を重ね、当日は絵本の読み聞かせなども導入。親グループは自由な語り合い、子どもと同様の表現活動（工作）に取り組んだ。完成した作品の写真を次回以降のチラシに組み込むなど、次回以降より充実した支援に向けた検討も実施。



グリーフサポートプログラムの様子 ①「悲しみ」について学ぶ ②リラックスする方法を体験



③第2回グリーフサポートプログラムのチラシ

この1年間の成果

これまで親ががん闘病中の子どもへのサポートについては、CLIMB®プログラムを運営し、実績を重ねてきましたが、親を亡くした子どものサポートについては未着手でした。今回の助成により、子どもおよびその保護者に対し、死別後のプログラムを提供できたことで、より幅広い支援活動が可能となりました。日本では、医療者によるがんに特化した子どものグリーフサポートは珍しく、非常に有意義なイベントであったと思われます。専門家によるプログラムは、参加した子ども、保護者にとって安心、安全を提供し、レジリエンスを育むことにつながりました。今後も、子どもへのグリーフサポートの必要性を啓発し、継続して運営できるよう活動していきたいです。



● 団体紹介

「まちはそこに暮らす人、かかわる人たちで創り上げていく」という理念から、人々が街について「知り」「思い」「かかわる」ために有効な事業を展開。未来を担う子どもたちが、自分らしさを生かせる生き方を自分の力で見つけられるよう促しつつ、大人も子どもも「まちづくり」を通して、楽しみながら学べることを目指しています。（設立2008年）

● 助成対象活動の目的と概要

子どもたちが地域のまちづくりに関心を持ち、多様な考え方を知り、自分が誰かの役に立つことの楽しさを知ること、「自己肯定感」「有用感」「自主性」を育めるよう、以下の活動を行いました。

- ・ 大人から指導や指図を受けず、自分たちの自由な発想で子どもたちがまちづくりをする「こどものまちミニヨコハマシティ」
- ・ 全国のこどものまちとの共催で行う「こどものまちEXPO」

● 助成対象活動の実績

● ミニヨコハマシティ、こどものまちEXPO

9月28日（土）11時～16時（運営市民の子ども 9時から準備）
子ども173名、大人ツアーなど35名 大人スタッフ32名参加
教えて？こどものまちシンポジウム 登壇者7名 参加者35名
野島青少年研修センター交流会 宿泊45名

● ミニヨコハマシティ

9月29日（日）11時～16時（運営市民の子ども 10時から準備）
子ども161名、大人ツアーなど29名 大人スタッフ42名参加

◆こども会議

2023年度の運営市民とミニヨコハマシティに参加した運営市民を希望する子どもたち、ウェブサイトにて募集し集まった48名の小学1年から高校生までの子どもで検討会議を実施

第一回こども会議

6月22日（土） 子ども31名、スタッフ&学生スタッフ15名

第二回こども会議

7月21日（日） 子ども27名、スタッフ&学生スタッフ15名

第三回こども会議

8月25日（日） 子ども30名、スタッフ&学生スタッフ8名

◆事前準備、振り返り

8月～2月 全10回実施



ミニヨコハマシティ「市長選挙」の様子



ミニヨコハマシティ「こどものまちEXPO」

※「第2回世界こども×地域合衆国サミット @田園調布学園大学」に市長、副市長がサミットでの意見交換に参加

※横浜北部文化フォーラム：ボッシュホールでのミニヨコ開催希望を子どもたち6名がプレゼン

※現在、2025年度ミニヨコ新市民募集中

この1年間の成果

2024年度の活動は、非常に盛りだくさんなものになりました。ミニヨコハマシティの運営はもちろんのこと、他の「こどものまち」からも子どもたちを招待することができ、出店してもらいました。全国の子どもたちが遠くから来ているため、青少年センターを宿泊施設で借りたのですが、せっかくならと横浜の子どもたちも希望者は宿泊し、お泊まり交流会が実施できました。さらに、11月に田園調布学園大学で行われた、「世界こども×地域合衆国サミット」へ参加することができ、ドイツミニミュンヘンの子どもたちとも交流しました。また他地域の大人主催者同士の意見交換を本音で行うことができ、多くの気付きを得ることができました。



団体名：認定NPO法人 横浜こどもホスピスプロジェクト（★）

● 団体紹介

LTC（生命にかかわる病気）の子どもやきょうだい・家族が、家庭的な環境の中で豊かな時間を過ごし、喜びも悲しみも共に分かち合い支え続けるコミュニティ型「こどもホスピス」の運営と広報啓発事業、小児緩和ケアの普及と人材育成事業を行っています。（設立2017年）

● 助成対象活動の目的と概要

LTCの子どもと家族が自宅や病院以外に過ごせる「第二のおうち」として、家族との時間を安心して過ごし、豊かな時間を提供する活動を行いました。また、生き生きとした子どもたちの写真を通してこどもホスピスの日常を紹介する「うみそら写真展」を開催。利用者のインタビュー動画も制作しました。

● 助成対象活動の実績

● 「うみそらのおうち」で、LTCの子どもと家族にとって安心して過ごせる居場所と豊かな時間の提供

利用者数：イベント利用も含めて延べ308家族1176名。宿泊利用は、36家族（登録数は約100家族を超え、増加中）
今年度からは1～2カ月に一度、登録家族が予約なく自由に参加できる『ファミリーデー』を設置。当日の体調や気持ちなど思い思いにご利用いただくことで、利用者同士の交流、子ども同士（病児・きょうだい児）の遊び、ボランティアスタッフとの関わりなどが増え、ケアの幅が拡大。今年度からは施設に来るのが厳しい状況の家族へのケアを目的に、スタッフによる自宅訪問の取り組みを始めました。病児はもちろん、不安な状況下の保護者やきょうだい児にも最後まで寄り添い、お空に旅立ってからその関係を継続し、今しかない時間を大切に、子どもらしく豊かな時間を過ごせるよう活動しています。

● 存在意義とLTCの子どもと家族の認知向上を目的に、イベントや日常の様子を展示する

「うみそら写真展」を11/23、24に開催

＜オープンハウスイベント＞

「こどもマルシェ」利用者の子どもたちが製作～価格設定～接客まで自分たちで決め、作品を販売

「うみそらっコ」によるミュージックビデオ上映

子どもたちを撮影した動画を編集しイベント当日に上映。施設に来られない子どもたちの参加を実現

「ちいさなマルシェ・レモネードスタンド」

「お庭での演奏会」神奈川県立こども医療センターのSwing for Kidsによる演奏会



「うみそらのおうち」開所3周年記念イベントのチラシ

● 「うみそらファミリーインタビュー」動画の制作

認知度向上には実際に利用された家族の声を届けることが大切だと考え、1本の利用者インタビュー動画を撮影。反響は大きく、どんな現場スタッフの声よりも利用者の声には説得力があることが分かり、現在は2本の動画をYouTubeで公開中

- ① 10代のかほさんのお話 「楽しい時もつらい時も、いろんな時間を過ごす場所」
- ② ゆうへいくんのお母さんのお話 「おとうと達と遊べる楽しい時間」

この2年間の成果

「横浜こどもホスピス～うみそらのおうち」は病気であっても子どもが子どもらしく生き生きとした時間を過ごせる「第2のおうち」です。東急子ども応援プログラムより2年間の助成を受け、私たちは、「うみそら写真展」を開催しました。ご利用の子どもやご家族の笑顔を写真を通して大勢の方に見ていただく貴重な機会となりました。また、今年度はファミリーインタビューも2本制作し、ご利用家族の声をYouTube動画にアップし、当団体チャンネルにて配信しています。こうした広報活動を通じて多くの方がこどもホスピスについて知り、対象となる当事者に必要な情報を届けることができました。今後も継続的に啓発活動を続けていきます。



● 団体紹介

全ての青少年が周囲の人々から見守られ、人のつながりの中で成長していくことができる社会の醸成を目指しています。多様な人々と交流し、さまざまな体験を通じて青少年自らが学び育つ機会の提供や、青少年に関わる人材の育成、地域・団体・企業などと連携協働した体験活動の運営などで、横浜の未来を担う青少年の成長に寄与しています。（設立2005年）

● 助成対象活動の目的と概要

高校生が生きる力や社会とつながる力を育み、孤立化を防いで潜在的な課題を早期発見し解決することを目指し、無料の校内カフェを運営しました。地域の方や社会人・大学生と交流し多様な価値観に触れられるイベントやワークショップの開催、勉強しながら進路や学校生活のことを話せる場(おしゃべりできる自習室)づくり、手作りの軽食などの提供による生徒の心と体の健康づくりにも取り組みました。

● 助成対象活動の実績

スイーツや飲み物を片手にホッと一息つける空間を提供し、社会人・大学生ボランティアだけでなく、さまざまに活躍している人と出会い「勉強」「部活」「人間関係」「進路」「家族」のことなどを気軽に相談できる場となることを目的に校内カフェを実施

- ・第1回 4/19 参加者：224名
- ・第2回 5/16 参加者：208名
- ・第3回 6/24～26 食育週間 食材の提供：200食
- ・第4回 7/11 参加者：167名
- ・第5回 8/29 参加者：198名
- ・第6回 9/12 参加者：198名
- ・第7回 10/17 参加者：180名
- ・第8回 11/19 参加者：178名
- ・第9回 12/24 参加者：168名
- ・第10回 1/28 参加者：202名
- ・第11回 2/27 参加者：178名
- ・第12回 3/25 参加者：143名



①提供されるスイーツの列に並ぶ高校生 ②ボードゲームで社会人との交流を深める

校内カフェの様子

- ・さまざまな交流が生まれ、価値観や将来の選択肢を広げる“社会との接点”となり、キャリア教育・キャリア支援につながった
- ・相手への共感や異年齢の交流から異なる価値観を持つ人と交流することが、視野を広げるきっかけとなった
- ・継続して実施することで、性別や年齢に関係なく協力し合うなど、コミュニケーションの活性化が図られた
- ・イベントをきっかけに協力団体と学校内の部活をつないだ結果、地域のイベント参加につながるなど、地域連携や学生の社会参画に寄与した
- ・大学生企画によるトークショーを開催。大学の魅力や選び方、大学生のリアルなど気軽に相談できる環境づくりが、進路に悩む生徒などへの支援につながった
- ・自己肯定感・達成感の育成を目指したWSを開催し、自分の考えやアイデアを形にする経験の機会を提供した

この1年間の成果

校内カフェの取り組みは全国の学校で広がりを見せており、当法人でも横浜市立の定時制高校にてカフェを運営しています。企業からの助成を受けて実施している例がこれまでになかった中で、企業と連携した校内での居場所づくりの基盤・モデルを確立することができました。またこの取り組みにより、生徒たちが安心して集える場を提供するとともに、地域や企業とのつながりを深める機会を創出しました。来年度は大学生と高校生が運営の主体となり、より多様な活動を展開することで、さらに発展的な取り組みを推進していきます。



団体名：NPO法人 レスパイト・ケアサービス萌

● 団体紹介

「ご家族のほっと一息をお手伝いします」をスローガンに、障がい児の在宅生活のQOL向上を願い、ボランティア活動を開始。治療や訓練といったケアだけでなく、子どもと家族が当たり前に安全で楽しい時間を過ごせるよう、またご家族のレスパイト時間の確保に配慮して、訪問看護や障害福祉サービス、相談支援、啓発活動などを行っています。（設立1995年）

● 助成対象活動の目的と概要

医療的ケアや障がいを持つ子どもとご家族が、安心できる環境で楽しいことを経験し、たくさんの人に出会える時間と空間を提供できる仕組みづくりに取り組みました。その関わりが、それぞれのご家族の「はじめの一步」を踏み出すきっかけとなることを目指し、横浜市泉区の古民家を拠点に月1回程度オープンするカフェや、より多くの人と交流できるイベントを開催しました。

● 助成対象活動の実績

- ① 5/12 「NPO法人 BLACKSOX」とのコラボレーションイベント：10家族 34名、ボランティア46名、計81名参加
横浜市「にいほる里山交流センター」の施設内外でスポーツやゲームなどの企画、福祉車両タクシーの試乗会を実施
- ② 6/30 「みんなのおうち」：3家族11名、ボランティア9名、計20名参加
ホイップアートやトランプ大会、保護者向けのアロマ制作などを実施
- ③ 7/21 「うみとそらのおうち」でアート体験や入浴体験イベント：4家族10名、ボランティア14名、計24名参加
「認定NPO法人 横浜こどもホスピスプロジェクト」の協力により実施
- ④ 9/29 「みんなのおうち」：3家族7名、ボランティア5名、計12名参加
カバンやTシャツを染めるタイダイ染め体験などを実施
- ⑤ 10/20 遊び・バーベキューイベント：8家族22名、ボランティア14名、計36名参加
横浜市栄区小菅ヶ谷北公園のインクルーシブ遊具での遊び体験、テントを借りてバーベキュー体験を実施
- ⑥ 12/8 クリスマスパティー：19家族56名、ボランティア17名、計73名参加
（会場参加できない子どもたちは、事前に集めた指スタンプ・クリスマスツリーのデザインをポスター、チラシ、Tシャツに反映し参加）
横浜国際ブルー「多目的ホール」でインクルーシブデザイナー集団「SOCIAL WORKEERZ」によるダンスパーティーや萌サンタとの写真撮影会を実施。ストレッチャーの利用や呼吸器を装着するなど外出が難しい子どもたちも参加し、さまざまな出会いの機会を創出
- ⑦ 1/26 デジタルツールやアートを使ったイベント：10家族26名、ボランティア12名、計38名参加
神奈川県立境川遊水地公園「今田管理センター」で視線入力アプリケーション「EyeMoT」で視線を使った初めてのお絵描き体験、墨絵アートや工作遊びを実施
- ⑧ 2/16 「みんなのおうち」：2家族5名、ボランティア4名、計9名参加
パステルアートを実施。それぞれの子どものペースでゆっくり過ごす場に
- ⑨ 3/23 「みんなのおうち」：4家族11名、ボランティア9名、計20名参加
パステルアート、河川敷でのピクニックやパラバルーンを実施



「みんなのおうち」でのタイダイ染め体験

この1年間の成果

病気や障がいがある子どもは治療や訓練が優先され、楽しい経験や家族との時間、子ども同士の関わりが制限されます。コロナ禍が明け、ご家族と子どもが多くの人と出会い、みんなが「いい日だったな、楽しかったな」と思える時間を過ごせるようにと立ち上げた企画でした。手探りでスタートでしたが、いろいろな団体にご協力いただき、大きなイベントや福祉車両の送迎など事業所だけではできないことにチャレンジできました。日々の訪問では得られない多くの人とのつながりや経験を広げることができました。私たちスタッフは、出会えた笑顔や頂いた言葉を宝物としてこれからの活動につなげていきたいと思います。



● 団体紹介

映画を手段として活用し、地域振興や人材育成を行っています。映像作品の作成過程から生み出される協同作業を通じて、地域の活性化や地域ブランドを確立。その作品を世界に発信することで、まちづくりの推進に寄与しています。商店街内の空き家をリノベーションしたキネマフューチャーセンターも運営しています。（設立2011年）

● 助成対象活動の目的と概要

大田区に縁のある子どもや若者に向けて、「生きる力」の向上につながるプログラム「リージョンフィルムディレクター養成講座」を開催しました。映像制作を通して、子どもたちが自ら考え、こうありたいと考える未来シナリオを自分の言葉で具現化することを応援しています。また家、学校以外の第三の居場所として、近隣地域を知り、地域社会の一員であることを認識できる場となることを目指しています。

● 助成対象活動の実績

● リージョンフィルムディレクター養成講座プロジェクト説明会

4/28、5/12 プロジェクト説明・ワークショップ 参加者：延べ10名

● 映画上映フューチャーセッションキックオフ（体験会）

6/9、6/30、7/14、7/21 映画上映やロケハンなど 参加者：延べ18名

● コンセプトメイキングフューチャーセッション開催

9/23 スピンオフ企画「家族で学ぼう スマホ撮影講座」など 参加者：9名

● 子ども映画製作プロジェクト

参加者：延べ子ども16名、大人13名

TAKE 1 12/22

◆テーマ 夢を語ろう

◆内容 ①プロジェクト説明 ②アイスブレイク ③夢トーク ④未来シナリオづくり ⑤ストーリー発表

TAKE 2 1/26

◆テーマ まちを知ろう

◆内容 ①プロジェクト説明 ②自己紹介タイム ③蒲田のまちの地図を見る ④街歩き ⑤写真撮影と共有

TAKE 3 2/23

◆テーマ 物語を創ろう ビジュアル化 絵コンテをつくる

◆内容 ①プロジェクト説明 ②絵コンテの意味 ③講師より主人公のビジュアル化について解説

④具体的に思い描く主人公を描く「絵コンテ」作成 ⑤発表

TAKE 4 3/20

◆テーマ 未来シナリオを発表しよう

◆内容 未来シナリオ発表

①自己紹介2 ②グループワーク「ありたい未来」を20分間で20個ブレスト ③3、4つのフレームワーク分類

④未来シナリオの選択 ⑤起承転結4つの絵コンテを作成 ⑥映画シナリオ発表 ⑦修了書・監督賞発表



「未来シナリオ」発表の様子

この1年間の成果

この活動を通しての成果は改めて子どもたちの感性、自由な発想や、先入観にとらわれないアイデアなどに触れることができたことです。大人が想定している枠組みを超えてさまざまなチャレンジを繰り返す子どもたちの姿に励まされました。一緒に参加した大人たちも普段とは違う発言や行動をする子どもたちを見て、驚いたり、喜んだりしていらっしゃいました。プロジェクトを通じて子どもたちが大人になり社会の中心となった時にどのような地域になっているのか、大人は何をバトンタッチできるかを考えましたし、大人が渡すだけでなく、子どもたちが主体的に自分たちの未来社会は自分たちでつくっていけると強く感じました。

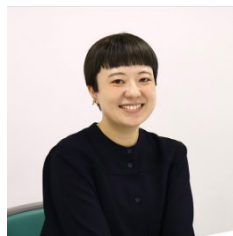
リーダーインタビュー

子どもたち一人ひとりが望む「幸せ」につながることを願い、地域には温かく思いやりにあふれるさまざまな活動があります。そのような活動を支援推進する皆さんの熱い思いを伝え、活動の輪を広げたいとスタートしたリーダーインタビュー。2024年度までにご登場いただいた19人の皆さまです。



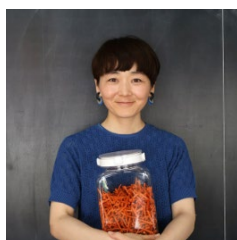
リーダーインタビュー Vol.19
CFFジャパン
川崎 修さん

活動の根源にあるのは、子どもと若者の育ち合い。誰もがつながれる地域づくりにも貢献していきたい



リーダーインタビュー Vol.18
よこはまユース
山中 梓さん

毎月一度、高校の中にカフェをオープン。ちょっと楽しい気軽な居場所ので、信頼できる大人との出会いを願って



リーダーインタビュー Vol.17
おおたクリエイティブタウンセンター
山本 章子さん

モノづくりを通して子どもたちに未来を切り開く力を。自由な発想やチャレンジを後押しし、非認知能力の向上をサポート



リーダーインタビュー Vol.16
Hope Tree
大沢 かおりさん

孤独や後悔を抱えずに、その子らしく生きられるように。がんで親を亡くした子どもたちを支えるグリーフサポートプログラム



Vol.15
Sharing Caring Culture
三坂 慶子さん



Vol.14
愉音
松本 有理江さん



Vol.13
びじっと・離婚と子ども問題支援センター
古市 理奈さん



Vol.12
Picture This Japan
大藪 順子さん



Vol.11
YUMEプラス
関口 清斗さん



Vol.10
I Love つづき
中 聡美さん



Vol.9
特別対談：「あおば学校支援ネットワーク」x「ちいき未来」



Vol.8
ワーカーズ・コレクティブ子育て応援チームすこつぶ
北後 真智子さん



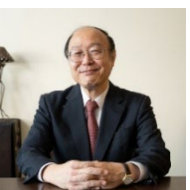
Vol.7
OluOlu
恩田 雅子さん



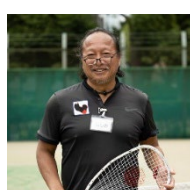
Vol.6
レスパイト・ケアサービス萌
後藤 淳子さん



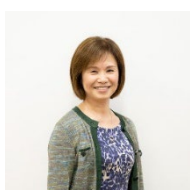
Vol.5
地球学校
辻 雅代さん



Vol.4
子どもセンターてんぼ
影山 秀人さん



Vol.3
BLACKSOX
西野 耕太郎さん



Vol.2
せたがやチャイルドライン
田野 浩美さん



Vol.1
街カフェ大倉山ミエル
鈴木 智香子さん

リーダーインタビューはこちらからご覧ください。
<https://kodomo.tokyu.co.jp/interview/>



プログラム概要

子どもは一人ひとり多様な可能性を持っています。

しかし、慌ただしい生活時間や限られた人間関係の中で、可能性の芽がのびのびと育ちにくい環境があり、

さらには、いじめ、引きこもり、家庭内暴力、経済的に困窮する家庭状況や、

不安や困りごとなどを抱えている子どもたちもいます。

地域には、そうした子どもたちをサポートする、家庭や学校以外での大人たちの活動があり、

子どもたちや家族が安全・安心で心豊かに暮らせる生活環境づくりをサポートしています。

このプログラムでは、子どもたち一人ひとりが望む「幸せ」につながることを願って、

皆さまの活動を支援します。

1

助成対象となる活動

子どもを取り巻く社会課題の解決を目指し、子どもたちの幸せを支える地域の活動

活動例

1.子どもが安全で安心できる場を提供する活動

- ・居場所づくりや子ども食堂などの活動、シェルター活動
- ・コロナ禍の環境変化により生きづらさを抱えた子どもたちの支援に関わる活動 など

2.障がいや難病とともに暮らす子どもと家族を支援する活動

- ・外出支援の活動、入院児の学習支援の活動、きょうだい支援の活動 など

3.外国にルーツを持つ子どもたちの支援や多文化共生を目指す活動

- ・日本語学習サポート、進学支援、キャリア教育、
日常生活に関する情報提供サポート（例「やさしい日本語」の活用） など

4.子どもの「生きる力※」の向上につながる活動

※困難な環境でもしなやかに生きていく力、子ども自ら好奇心を持って考えて行動していく力

- ・子どもの主体性を育み、参画を促す活動
- ・文化・芸術・スポーツなどを通じて生きづらさや困難を乗り越え、生きる力を育む活動、
地域や社会を知る活動、自然を体験して遊び学ぶ活動 など（塾や習い事を除く）

5.子どもたちの安全・安心な暮らしを支えるコミュニティをつくる活動

- ・支援者育成、ボランティア育成、ネットワーク支援、普及啓発活動 など

6.その他、本プログラムの趣旨に合致する活動

※本プログラムでは、活動の発展やステップアップにつながる取り組みを期待します。

※本プログラムは2年間の継続助成が可能です。

2

助成対象となる団体

- ・民間非営利団体であること。法人格は問いません
（特定非営利活動法人、一般・公益法人、任意団体など。任意団体の場合は会則があり、「人格のない社団」の成立要件を満たしていること）
- ・助成対象となる活動地域が東急線沿線の市区内※にあること（主たる事業所はそれ以外でも構いません）
※東京都：品川区・目黒区・大田区・世田谷区・渋谷区・町田市
神奈川県：横浜市 神奈川区・西区・中区・港北区・緑区・青葉区・都筑区 川崎市 中原区・高津区・宮前区 大和市
- ・応募締切日に団体設立後2年以上の活動実績があること
- ・団体のホームページやSNSなどで活動や団体概要が公開されていること
- ・助成開始後、報告書の提出や報告会などへの出席に同意すること
- ・団体の目的や活動が政治・宗教などに偏っておらず反社会的勢力とは一切関わっていないこと

3

助成期間・助成額・応募受付期間

助成期間	2024年4月～2025年3月（1年間）
助成額	1件あたりの助成額：50～100万円（合計10件程度に助成予定）
応募受付期間	2023年9月1日（金）～9月14日（木）必着

4

選考

選考委員会による書類選考を行います。選考委員会は、学識経験者、NPO実務経験者、主催企業担当で構成します。

1 選考委員会

◇ 選考委員長

木下 勇 大妻女子大学 教授／千葉大学 名誉教授・グランドフェロー

◇ 選考委員

- ・ 岩田 美香 法政大学 現代福祉学部 教授
- ・ 桑子 敏雄 一般社団法人コンセンサス・コーディネーターズ代表理事／東京工業大学 名誉教授
- ・ 原 美紀 認定特定非営利活動法人 ビーのびーの 副理事長・事務局長
- ・ 中村 恒次 東急株式会社 社長室ESG推進グループ 統括部長

（所属は選考委員会当時のもの）

2 選考基準

- ①**プログラム趣旨との適合性** 子どもたちを取り巻く現在の課題に向き合い、子どもが安全・安心で心豊かに暮らせる生活環境づくりにつながる活動か
 - ②**子どもの視点** 子どもの人権と主体性を尊重し、子どもの視点に立った活動か
 - ③**実現可能性** 目的、目標と計画が具体的で、スケジュール・体制・予算が適切か
 - ④**地域性** 活動対象地域の課題と現状の把握に基づき、地域の関係者と連携し、地域に根差した取り組みが期待できるか
 - ⑤**継続性** 助成期間終了後も継続的な活動が期待できるか
- ※以下は本プログラムの2023年度助成対象の団体が継続して応募する場合のみ
- ⑥**発展性** 助成1年目の活動を踏まえて、活動の内容に発展や展開が期待できるか

5

主催・協力団体

主催：東急株式会社

企画・運営協力：特定非営利活動法人 市民社会創造ファンド

事務局後記

助成対象団体の皆さま、活動を支援・参加して下さった皆さま、ありがとうございました。時おり皆さまの活動に参加させていただくと、子どもたちの生き生きとした姿もさることながら、皆さまがまっすぐに子どもたちのことを考え、向き合い、走り続けるエネルギーにもいつも刺激をもらいます。事務局として皆さまの活動に関わりを持てることを本当にうれしく思います。2024年の支援は一区切りとなりますが、未永く共に歩んでいけるよう、引き続きよろしくお願いいたします。

東急子ども応援プログラム

子どもたちの幸せを支える地域の活動を応援します。

これまでの助成団体一覧

2020年度（第1回）

NPO法人 I Loveつづき／認定NPO法人 あっちこっち／一般社団法人 おやまちプロジェクト／認定NPO法人 子どもセンターてんぼ／NPO法人 子どもに音楽を／社会福祉法人 世田谷ボランティア協会せたがやチャイルドライン／認定NPO法人 地球学校／NPO法人 BLACKSOX／NPO法人 街カフェ大倉山ミエル／NPO法人 レスパイト・ケアサービス萌 （10団体、総額844万円助成）

2022年度（第2回）

NPO法人 I Loveつづき／NPO法人 あおば学校支援ネットワーク／一般社団法人 英会話同好会 from OTA／NPO法人 OluOlu／こども世界テーブル／NPO法人 ちいき未来／認定NPO法人 地球学校／Picture This Japan／NPO法人 街カフェ大倉山ミエル／愉音／NPO法人 YUMEプラス／ワーカーズ・コレクティブ子育て応援チームすこっぷ （12団体、総額1,000万円助成）

2023年度（第3回）

NPO法人 あおば学校支援ネットワーク／認定NPO法人 キーパーソン21／NPO法人 グリーンフィールド／NPO法人 こあら村／認定NPO法人 CFFジャパン／NPO法人 Sharing Caring Culture／NPO法人 ちいき未来／一般社団法人 DRIFTERS INTERNATIONAL／Picture This Japan／一般社団法人 びじっと・離婚と子ども問題支援センター／愉音／認定NPO法人 横浜こどもホスピスプロジェクト／ワーカーズ・コレクティブ子育て応援チームすこっぷ （13団体、総額1,250万円助成）

団体名称50音順
団体名称は当時の名称です。

東急スクラムプロジェクト

東急(株)グループの多岐にわたるノウハウやアセットを活用し、子育て関連施設やサービスのさらなる強化・連携に取り組むことで、東急線沿線の子育て世帯や学生におけるサービス向上や家計応援を実現する取り組み。「交通利用」、「まなび」、「お出かけ」、「暮らし」、「文化・体験」といったさまざまなシーンで、子育て世帯や学生の支援を推進することで、より住み続けたい沿線の実現を目指します。

「東急子ども応援プログラム」は、東急スクラムプロジェクトの一環として行っています。

東急株式会社
東急子ども応援プログラム事務局

〒150-8511 東京都渋谷区南平台町5-6
Email : kodomo@tkk.tokyu.co.jp

発行：2025年7月



東急子ども応援プログラムHP